

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	四天王寺大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シテンノウジダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	国際キャリアインターンシップ
	学部・研究科等名	人文社会学部 国際キャリア学科
	担当教職員名・役職	深見環 教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	2
	受入企業等名	近鉄不動産株式会社 ハルカス大学事務局(株式会社ワークアカデミー)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,2.有給インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	近鉄不動産が運営するゲストハウスでのインターンシップである。ハルカス大学(ワークアカデミー)が中心となって研修を行い、イベントプロデュース研修では、イベントや施設充実、広報などの企画、立案、実施を通じてゲストハウス運営の課題を発見し、業務を改革することも行う。語学力、リーダーシップ力、チームワーク力、企画立案力、運営推進力向上を目指すプログラムである。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次から4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	選択、専門教育科目であり、1年生から4年生まで受講可能である。インターンシップ就業と90分の研修8コマで、2単位付与される。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習では、ゲストハウスに必須となるおもてなし研修と、外国人に対する接客対応のための英語研修が行われる。インターンシップ就業中には、イベントプロデュース研修が行われ、ゲストハウス内でのイベントや施設、広報についての様々な提案と活動実施が行われる。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業中には中間報告会が、最終日には最終報告会がインターンシップ生から行われ、学生の振り返りについて企業と大学の担当者から、アドバイスと目標達成度についての確認が行われる。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学担当者がインターンシップ先に出向いて就業状況を確認するとともに、大学内でも学生と密にコミュニケーションを取りながら進捗状況について確認を行っている。またグループウェアを利用することにより、企業と大学がインターンシッププログラム全般について情報共有を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ルーブリックを作成しインターンシップ生の評価に利用している。おもてなし研修などでは、事前研修を行った後、アンケートを実施するとともに、インターンシップ後にもアンケートを実施し、おもてなしに対する学生の意識の変化を確認している。中間報告会や最終報告会も実施し、学生の到達度について企業と大学双方で確認を行っている。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2. 該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	90分の研修8回以上と就業78時間以上で単位が認定される。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前研修、事後研修とも企業担当者、大学担当者双方が参画し協働している。企業からの学生の評価シートも参考にしながら大学の評価に反映をしている。事前研修、事後研修、中間報告会、最終報告会、インターンシップの実施に対し、企業、大学双方が参画し、協働しながらPDCAの実施、サポートを行っている。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://ibunet.shitennoji.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp
問い合わせ先	大学等名	四天王寺大学
	担当部署名	国際キャリア学科
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	深見環
	電話番号	072-956-3181
	メールアドレス	fukami@shitennoji.ac.jp